愛媛県教育委員会
人権教育課
2024年(令和6年)
2月発行

えひめ愛顔の子ども新聞

えひめの子どもたちへのメッセージ

～みんなが安心して過ごせる学級・学校をつくるために、確かな行動に表そう～

愛媛県教育委員会教育長
田所 竜二

県内すべての小中学校をオンラインでつなぐ「えひめいじめSTOP!デイ」。以前は、小中学校の代表者による「子ども会議」等を開催していましたが、コロナ禍で一か所に集まっての開催が困難になったため、オンライン形式での開催に変更したところ、全国でも類を見ない愛媛県ならではの取組として、小学6年生と中学1年生を中心に約23,000人が参加し、みんなで一斉にいじめ問題の解決に向けて考える貴重な機会に発展しました。

3年目となる今年度は、「みんなが安心して過ごせる学級・学校をつくるために」をテーマに、事前に配信したミニ動画や演劇による問題提起、リアルタイムでのアンケートなどを通して、熱心な議論が行われました。その中で意見として出された、「自分自身を見つめること」や「友達の個性や考え方の違いを認めること」は、ライブ授業でもお話のあった「人とよりよく関わる方法」に通じるものであり、児童生徒の皆さんがいじめ問題に真剣に向き合っていると大変心強く感じました。

「えひめいじめSTOP!デイ」は、いじめ問題の解決に向けた一つのステップです。次のステップは、皆さんが、今後、確かな行動につなげていくことです。話合いで気付いたことを、日常の行動に表すことで、変化が生まれます。はじめの変化は小さくても、積み重ねていけば、必ずや大きな変革をもたらすことができます。いじめの起こりにくい学級・学校づくりに向け、皆さん一人ひとりが考え、実践してほしいと願っています。

保護者や地域の皆様、子どもたちが学校で安心して学べる環境をつくるためには、いじめ問題について当事者意識をもって考え、地域社会全体で人権を尊重する精神の涵養や、いじめを見逃さない雰囲気を醸成することが大切であると考えます。子どもたちの考えや意見を尊重しながら、豊かな感性を育み、見守り、支えていただきますようお願いいたします。

最後に、「えひめいじめSTOP!デイ」の開催に当たり、ご理解とご協力をいただいた皆様に、心から感謝申し上げます。

相談窓口 気軽に相談してね

いじめ相談ダイヤル24

SNS相談ほっとえひめ 中高生専用

学校で配られているチラシやしおりの二次元コードから友達登録してね!

みんなが安心して過ごせる学級・学校をつくるために

県内一斉ライブ授業 えひめいじめSTOP!デイ開催

令和5年 11月16日(木)、宇和島市立南予文化会館をメイン会場に、県内すべての市町をオンラインでつないだ一斉ライブ授業「えひめいじめSTOP!デイ」が開かれました。小学校6年生と中学校1年生を中心に約23,000人が参加し、みんなが安心して過ごせる学級・学校をつくるためにはどうすればよいのかについて話し合い、考えを深めました。

ライブ授業の前半では、昨年と同じように劇を鑑賞し、自分が劇の登場人物の立場だったら、どのような行動を取るかについて各学級で話し合いました。リモートでつながった6校から、「そっとしておいてほしい気持ちと声を掛けてほしい気持ちがある」など、多様な意見が出されました。後半は、「みんなが安心して過ごせる学級・学校をつくるために必要なこと」についてライブアンケートを実施。約18,000人からの回答には、「普段から様々な人と関わること」「意見を最初から否定せず、まずは受け止めることが大切」といった意見など、何でも言い合える環境や人との信頼関係をつくることの大切さについての意見が熱く交わされました。

ゲストから

スペシャルゲスト あばれる君

小中学生の真剣な話合いや、熱のこもった演劇を振り返りながら、「悩んでいるときには、友達に話すと楽になることもある。気軽に話せる関係をつくっておくことが大切」と、笑いを交えて話合いを盛り上げました。また、日頃の友人とのよりよい関係づくりについては、「自分に厳しくしすぎないといい。そう考えることで自分は楽になった」と、自らの経験を交えて、子どもたちにエールを送りました。

アドバイザーから

西原勝則先生(愛媛県教育カウンセラー協会代表)

「みんなが安心して過ごすことのできる学級・学校をつくるためには、日頃の関係づくりが大切」とアドバイスされました。様子が気になる友人がいたら、「大丈夫?」「私にできることがあったら言ってね!」といった声掛けができるような仲間づくりをしておくとよいと、お話されていました。また、「自分の短所は長所になることもある。物事をポジティブに考えるリフレーミングを行うことで、もっと自分に自信をもってほしい」と、エールを送られました。

小5～中2のみんなに聞いてみた!

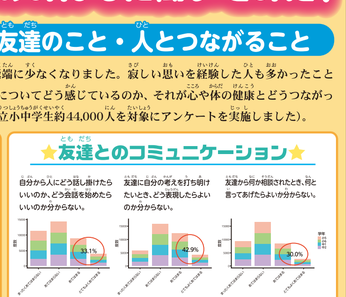
自分のこと・友達のこと・人とつながること

コロナ禍で遊びや学習に様々な制限があり、人との関わりが極端に少なくなりました。寂しい思いを経験した人も多かったことでしょう。そこで、今、小中学生のみんなは、周りの人との関わりについてどう感じているのか、それが心や体の健康とどうつながっているのかについて調べてみました(令和5年6～7月、県内の公立小中学生約44,000人を対象にアンケートを実施しました)。

★自分のこと★

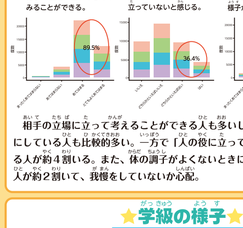
相手の立場に立って考えることができる人も多いし、自分のよさを大切にしている人も比較的多い。一方で「人の役に立っていない」と感じている人が約4割いる。また、体の調子がよくないときにうまく表現できない人が約2割いて、我慢をしていないか心配。

★友達とのコミュニケーション★



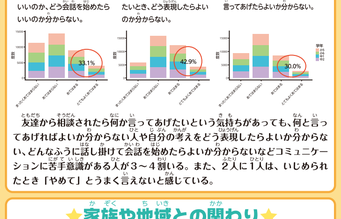
友達から相談されたら何か言ってあげたいという気持ちがあっても、何と言ってあげればよいか分からないから自分の考えをどう表現したらよいか分からない、どんなふうに話し掛けて会話を始めたらよいか分からないなどコミュニケーションに苦手意識がある人が3～4割いる。また、2人に1人は、いじめられたとき「やめて」とうまく言えないと感じている。

★学級の様子★



友達同士助け合いがよくでき、「このクラスで良かった」と思う人が多いなど良好な傾向が見られた。ただ、自分の気持ちを気軽に言い合える関係とは言えないと感じている人も約2割いた。

★家族や地域との関わり★



地域の一員としてなじんでいる人が多く地域への関心も高い。また、家族や友達のサポートも比較的高い。ただ、家族のサポートが十分に受けられなかったり、家族との話合いがうまくできないと感じたりしている人もいて、様々な人との関わりが大切。

協力・分析 人間環境大学総合心理学部(徳岡 大・嘉瀬貴祥 他)

仲間や家族、地域の人の存在は、大きな支えとなります。ただ、人とよりよい関係を築くために大事なことは何か、どんなふうにコミュニケーションをとればよいかが分からないと、人間関係を築くことに苦手意識が生まれてしまうのかもしれません。

《教えて》2割ってどのくらい?

➡10人のうち2人が当てはまるということだよ。40人のクラスだと8人ぐらいいるってこと。

ライブ授業前

今年もセンター校とリモート校では、「事前ワークショップ」を行ったよ。ゲームを通して、友達のことを知ったり、演劇ワークショップで相手の立場に立って考えたりしたよ。

センター校

○宇和島市立鶴島小学校
○宇和島市立城東中学校

当日の演劇は、実は、私たちの実体験に基づいたお話でした。役を演じることで分かるその人の「気持ち」を理解できました!

リモート校

○新居浜市立中萩小学校
○土島町立岩城中学校
○伊予市立北山崎小学校
○松山市立余土中学校

サテライト校 408校

ライブ授業前半

二つの劇を鑑賞して、もし自分が主人公だったらどうするか、逆の立場だったらどうするか、考えながら、人との違いや、その違いを認め合うことについて話し合ってみたよ。

劇 6年生、ハイ!

授業中、急に明日の全校集会の司会進行を決めることに…みんなが嫌がる中、勇気を出して手を挙げたきょうか。最初は、みんなきょうかを否定するが、きょうかの頑張る姿にみんなの心が動かされていく…

県内の中学生が演じました

劇 まるごとユー&アイ

元気がないしゅんに、気付き、声を掛ける級友たち…。一人で問題を抱え込んでいたしゅんは、自分のこのように考えてくれる仲間と話し合っていくうちに、ありのままの自分でいることがすてきだということに気付いていく…

劇を通して話し合ったこと

「きょうかが、目の前にいたら、どう関わる?」

勇気を出して行動することを応援し、みんなで助け合いたい

「しゅんが、目の前にいたら、どう関わる?」

友達の変化に気付いたら、そっと寄り添って話をきいてあげたい

「自分が、しゅんだったら、どうしてほしい?」

自分の気持ちや伝えたいことが整理できるまで少しそっとしておいてほしい

考えるヒント 5分間のショートストーリー

今年はライブ授業の前後にミニ動画を見て、日ごろの生活を見直したり、クラスで話し合ったりしたよ。

❶安心して過ごせる楽しい学校ってなーに?

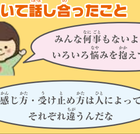
❷お話しよう

❸いいことをすると楽しい

愛媛県 YouTube 公式チャンネルで公開中。みんな見てね。

ライブ授業後半

「みんなと違うな」と感じることについて話し合ったこと



「何か話すときには、相手のことを思って声を掛ける」など、人にはそれぞれ違いがあることを知り、それを認めて行動することの大切さについて話し合いました。

まとめ

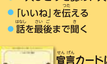
「みんなが安心して過ごせる学級・学校をつくるために」

みんなでできること

- クラスでコミュニケーションを深める
- 失敗を恥ずかしいと思わない雰囲気をつくる
- みんなで安心して過ごせる学級・学校をつくりたい、という気持ちをもっておく

一人ひとりにできること

- 違いを楽しむ
- 一人ひとりを認め、大切にする
- 「いい点」を伝える
- 話を最後まで聞く



宣言カードに書いたことをやっていこう!

違いを認め合い、自分の考えや気持ちを伝え合っていこう!小さなことから始めよう!
自分にできることはきっとある!!

ライブ授業中に聞きました わたしのホンネ

ライブ授業中に1人1台端末を使って、みんなが答えてくれた回答の中から、いくつか紹介するけん!

「みんなと違うな」と感じるところ

- ○ すぐ泣いてしまうところ
- ○ 運動音痴なところ
- ○ 人に話しかけるのが苦手なこと
- ○ 大人数でいる方が少人数でいるより楽なこと
- ○ スマートフォンを持っていない
- ○ ワイワイしている空気に入っていけないこと
- ○ 顔がコンプレックス
- ○ 周りの目を気にしすぎるところ
- ○ 持ち物の確認を何度もしてしまうところ
- ○ 無理して笑っていることが多いところ
- ○ 人との違いはあまり感じない
- ○ 言いたくない、答えたくない

みんなが安心して過ごせる学級・学校をつくるために必要なこと

- ○「しんどい」「助けて」といっても発言できて、それをみんなで助け合える環境づくり
- ○ 人を否定しないこと
- ○ 正しいことをしている人を批判しない
- ○ 自分を基準にして勝手に決め付けない
- ○ みんながいじめのことについて理解する
- ○ 相手からではなく、自分から変わる

こんな意見もあったよ!

自分は身長が低いです。だからといって、このクラスは差別したりからかったりしてきません。こんな学級を全国に広めていきたいです!

いろいろな考え方があるんだね!みんなの意見に感動したよ。

保護者のみなさんから

- ● 子どもたちは考えたことを伝える力をしっかりもっているから、自分から言えるまで待ちたい
- ● 人間関係について真剣に話し合っている姿勢がとてもすきでした
- ● この授業をきっかけにもっと考える人になってほしい
- ● とにかく周りに流されるのは止めてほしい
- ● 悩んでいたら話しやすい人に打ち明けてほしい
- ● 「絶対味方だよ」という気持ちを伝え、話を聞く場所をつくっていきたい

ライブ授業後

先生方から

「いじめSTOP!デイ」後のみんなの様子について

- ● 「いじめSTOP!賞状」を掲示したり、校内放送で紹介したりすることで、学級・学校全体の意識が向上している
- ● 「一人じゃないよ」「間違ってもだれもせめないよ」と声掛けするようになった
- ● 互いのよさを認め合い、励ましあう言葉掛けができるようになった
- ● 自分勝手な振る舞いが、周りの人に迷惑をかけていることに気付くようになった
- ● 全員が一斉に「いじめを許さない」「いじめが起こる雰囲気をつくらない」といった気持ちをもつことができた
- ● いじめ防止ポスターを作成したいという声が上がり、作成している
- ● 学習発表会で同じ劇をすることにした

センター校の船越小学校では、学習発表会を通して、さらに学びを深めたよ。

令和5年度 人権ポスター特選作品

人権尊重の意識を高めるためのポスター展

令和5年度は、小学校・中学校・高等学校等から計45,135点の作品が寄せられ、審査の結果、5点が特選作品として選ばれました。

特選作品は愛媛県教育委員会人権教育課のホームページでも見ることができます。

小学校低学年

「さそってくれてありがとう」

四国中央市立寒川小学校 2年 河村 晃さん

わたしのクラスは、女の子が11人で、みんななかよしです。休み時間には、いつもみんなであそんでいます。けんかすることも、たまにはあるけれど、すぐになかなおりしていっしょにあそびます。それは、いやなことがあったり、けんかしたりして、いやな気もちのときでも、わたしやお友だちのだれかが、かならず「いっしょにあそぼ!」とみんなに声をかけてくれるからだと思います。わたしは、これからもまほうのことば「いっしょにあそぼ!」をたいせつにして、お友だちとなかよくたのしくすごしたいです。

小学校中学年

「みんな 仲間」

宇和島市立明倫小学校 4年 織田 真代さん

私には、たくさんの仲間がいます。一緒に勉強したり昼休みに遊んだりしているクラスの仲間。同じ目標に向かって練習を続けている合唱部の仲間。そんな仲間のことを心に思いうかべながら、このポスターを描きました。どんなに苦しいことやつらいことでも、この大好きで大切な仲間と一緒なら、はげまし合い助け合ってがんばることができます。うれしいときには仲間みんなで喜び合えるので、うれしい気持ちがもっともっと大きくふくらみます。転校してしまった仲間もいるけれど、ずっと仲間だよという気持ちはその子にもきっと伝わっていると思います。仲間がいると、とても心強いです。自分の気持ちも伝えやすくなります。学校が楽しい場所になります。私の毎日がこんなに楽しいのは、大切な仲間がいるからだということを、みんなに伝えたいです。

小学校高学年

「心を通わせて 個性を認め合おう」

八幡浜市立江戸岡小学校 6年 吉川 陸さん

6年生になって、社会科の授業で憲法について勉強し、「基本的人権の尊重」や「法の下の平等」を知りました。この世の中は、いじめや差別は許されない、みんな仲良くすることができる世の中だ、という意味だと考えました。世界中のだれもが、だれとでも心を通わせることができる世の中になることを僕は願います。本当にそうなるためには、性別、年れい、人種、国籍、見た目も立場も関係のない、そのままの自分同士で、おたがいを理解し合い認め合うことが大切です。心を開いて相手を受け入れることが大切です。そのような思いから、このポスターには、まず自分の笑顔を描きました。特に、目の表情にこだわりました。また、地球上のだれとでも仲良くしたいという思いをこめて、地球を描きました。将来、世界中にたくさん友達を作ることが、僕の夢です。

高等学校

「人生 自分色で」

愛媛県立今治西高等学校 1年 木原 涼帆さん

人間は誰もが「自分色」を自由に決める権利があるし、本人以外が他の色で染めることはできないと思います。そんなメッセージをこのポスターに込めました。このメッセージをより強く伝えるために、キャッチコピーはなるべくシンプルで、力強いものにしました。今回のポスターでは、見た人が明るく前向きな気持ちになれることを意識しました。そのために、「自分色」をハケで力強く塗る様子や表情に力を入れました。また、色相が豊かなことと髪や服などの違いを分かりやすくすることを両立するために、明暗差をつけて描きました。このポスターを見た人が、「自分色」に自信をもつことができれば嬉しいです。

愛媛大学教育学部の学生の皆さんから

会場にいる人たちだけでなく、モニターの向こう側にいる小中学生と劇を見て一つのテーマについて考えている様子が印象的でした。「みんなが安心して過ごすことのできる学級・学校」は、どの学校でも目指していきたいものだと思います。そのために、今回のライブ授業で出た意見一つ一つに取り組むことができれば、それは実現できると思います。様々な考え方や個性をもった人が集まり、互いを尊重しようとする皆さんの姿勢を見て、そう感じました。今後もよりよい学校生活を送るために、ライブ授業で考えたことを大切に、実行していってください。

私たちは、将来、教師になりたいと考えています。皆さんの意見を聞き、安心して過ごすことのできる学級・学校の大切さを再認識しました。今後もよりよい学級・学校づくりについて考えていきます。

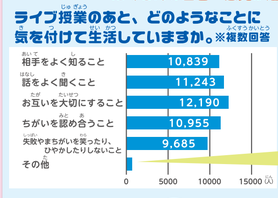
来年度は中予から発信します

令和6年度は中予の小中学校代表をセンター校に一斉ライブ授業「えひめいじめSTOP!デイplus」として、これまでの取組に人間関係構築力の見方を「プラス」して発信します。人とのよりよい関係づくりについてみんなで考え、いじめの起こりにくい環境をつくっていきましょう。

ライブ授業後アンケート

「いじめSTOP!デイ」後のアンケートに、たくさんの回答・意見が届きました。

ライブ授業前に、どのようなことに気を付けて生活していますか。※複数回答



- ・自分がされて嫌なことは人にしない
- ・一人で抱え込まない
- ・人任せでなく自分も行動する
- ・ライブ授業後、苦手な人を避けてない
- ・苦手な人への態度も平等に
- ・友達の短所を否定しない
- ・いじめを目撃したら絶対に見て見ぬふりをしない、行動する勇気をもつこと
- ・いつもとちがう子がいたらその子をよく見て、話し掛けるか、そっとしてあげるか決める
- ・相手に何か言うときは自分が言われてうれしいことが考えること
- ・相手の目を見ながら話したり、うなずいたりしている
- ・みんなの個性を理解し、失敗しても笑って成長していくすてきな学校になる
- ・考えることや、感じることなど、いろいろ個人差があるので、自分と違うことは、興味をもって聞く
- ・人のことを笑っている人がいたら、「そういうときもあるよね」や「笑ったらいかんよ」と言う
- ・身の回りの環境から変えていくためにスリッパなどを揃えたりしてきれいにすること
- ・相手のことを決め付けない
- ・コミュニケーションを大切にする
- ・気配りをする
- ・相談できる人をつくる
- ・自分を好きになる
- ・感情のコントロールをする